

自主公演 ヴェルディ『ドン・カルロ』（5幕版イタリア語）

合唱団員募集のお知らせ

宗像声楽教室の皆さま

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

3年前のダイヤモンドプリンセス号から始まり、いまだに終息のめどが立たないコロナウイルス感染。

ロシアによるウクライナ侵攻。相次ぐ物価高・・・・・・・・

気持ちが明るくなるニュースがめっきり少なくなってしまった今日、閉塞感から脱却し、人と人との繋がりを取り戻したいと願う人が私の周りには徐々に増えてきたように思います。

さて、当声楽教室は2024年の1月で開設20周年を迎えます。

私は昨年から『20年の節目には普段は自分のスキル向上だけを考えている生徒さん同士が、同じ一つの作品に取り組み、それを完成させる共同作業（オペラの語源はこの“共同作業”です）を通して、心を一つにすることの大切さと、それが実現された時の感動を味わって貰いたい』と考えるようになり、そのような機会を作るため、去年から構想を練ってきました。

個々のスキルを活かしながら、より多くの仲間と盛り上げられるもので真っ先に浮かんだのが合唱でした。普段ソロの曲に取り組んでいる皆様にとっては、合唱と聞いて少し物足りなさを覚える方もきっといらっしゃるでしょう。

そこで、ただ歌うだけではなく、演出家を招き、皆様にはオペラ合唱団員としてメイクと衣装を身に纏って劇中の人物を演じて頂き、一生の思い出になるようなオペラ公演を企画することに致しました。

上演作品は皆様ご存じのヴェルディの代表作『ドン・カルロ』（5幕版イタリア語上演 上演時間おおよそ3時間半）です。

オーケストラの臨場感、厚い響きがこのオペラの魅力でもあるため、今回はピアノ伴奏ではなく、本物のオーケストラに限りなく近い音が出せる高性能のエレクトーン2台を用いることにしました。

ソリストは門下生の中でも既に外部の公演に出演し、まだまだ未完成ではあるものの、成長著しい数名と、私を知る限りで皆様のお手本となる、素晴らしい声と演技力を兼ね備えた藤原歌劇団の本公演でも活躍されている方数名にお願いしました。

当教室の特徴として、長年継続されている方が多く、一人一人のスキルがとても高いことが挙げられます。このようなスキルの高い方々が一堂に集まり、気持ちを一つにして合唱に取り組めば、素晴らしい響きを実現するに違いないと私はかねてから夢を膨らませてきました。

イタリアの地方のオペラ劇場の合唱メンバーは、日中は床屋さんやお肉屋さん等、自身の仕事をし、夜になると劇場での合唱練習に参加して本番に備えます。仕事が休みの日には皆さんと同じように個人レッスンに通って声をひたすら磨き続けています。

個々の発声技術に関してはプライドを持ちながらも、声を重ね、気持ちを一つにすることの素晴らしさも彼らは知っているのです。

こういった地方の劇場で、合唱団員からスタートし、やがてその劇場のソリストとしてデビューし、キャリアを重ねながら、トップに上りつめた代表的な歌手がテノールのルチアーノ・パヴァロッチィです。

私も音楽学校を卒業してからしばらくは様々な団体のオペラ公演に合唱団員や助演として参加し、一流の歌手を至近距離で観察することによって非常に多くのことを学びました。

個々の発声の技術、声の美しさに関しては、皆さんの力は一般的な市民オペラの合唱団員より高いレベルにあります。

しかし、合唱団としてのレベルは発声の良し悪しだけで決まるものではなく、リズムや音程が非常に重要になります。

そこで、今回は外部の指導者を招いて音楽作りの基礎を学んで頂き、普段のレッスンとは違った角度から自分の欠点を知ること、自身の更なるレベルアップに繋げて頂き、趣味で声楽を続けている方々にとっては声を重ね合わせる事と演ずる楽しさを、外部の団体に合唱やソロで出演されている方々にとっては藤原歌劇団を始めとする現場で求められている価値観を知る良い機会にして頂ければと思っております。

まずは6月から月に1回、5回ほどの音楽稽古を行い、雰囲気慣れて頂きながら、10月からは演技を交えた立ち稽古を開始します。

合唱の指導は私の音楽学校時代の先輩で藤原歌劇団を始め、数多くの一流の現場で活躍されてきた鳴海優一先生にお願いします。演出は新国立劇場や日生劇場の現場スタッフとして活躍されている根岸幸さん、才能あふれる演出家です。

オペラの製作は理想を追求するほど費用がかさみ、採算のとれるものではない為、今回のような大掛かりな企画を自主公演で行うのは最初で最後かもしれません。どうぞこの機会をお見逃しなく、一つの大作を参加者全員で作る感動と打ち上げでの至福の酒を味わってください。

*****参加要項*****

公演日：2024年3月24日（日） 13：30開演（予定） ゲネプロ3月23日（土）

会場：パルテノン多摩小ホール

指導者： 指揮；鳴海優一（藤原歌劇団） 演出：根岸幸 練習ピアノ：河崎恵

本番エレクトーン演奏：山木亜美 柿崎俊也

参加資格：6月末から始まる音楽稽古までには譜面を見ながら歌え、10月からの立ち稽古までには完全に暗譜ができる方

（稽古は当面は月1回から始めます。予定では日曜日の午前か午後ですが、出欠アンケートの結果によって一部変更することもあります。日程が合わず、稽古を欠席された方のために、毎回の稽古の様子は動画配信致します。6月から音楽稽古5回、10月から立ち稽古10回を予定しております。稽古日は参加者の出欠をアンケート調査したうえで決定致します。本番とゲネプロは必ず参加して頂くようお願い致します）

参加費用：月謝制 3,000～3,500円（6月～来年3月の10か月）（10か月分一括払いも可能です）

（※ヴォーカルスコア代、本番衣装代、15回分の指導料、15回分のピアニスト謝礼、エレクトーン奏者謝礼、エレクトーンレンタル費、エレクトーン運搬費、客演ソリスト謝礼、字幕作成費、照明プラン作成費、舞台監督人件費、本番までの稽古会場使用料、ホール2日分使用料、付帯設備使用料、チラシ、パンフレット、チケット作成料他一切を含みます。参加人数によって若干の金額変更あり）

参加特典：招待チケット（一般向け販売価格4,000円）をお一人6枚差し上げます

申込期限：2月18日（土） （締め切り後にスコアの発注を行いますので、早めにお申し込みください）